

永久に騙されやすいアメリカ人

【訳者注】100年以上前の作家マーク・トウェインの言葉が、現在のアメリカ（とその従僕連盟国）にぴったり当てはまるのは驚きである。「自己欺瞞によって安らかに眠る」という表現は痛烈であり、これは本当のことが報道されないわが国でも同じである。あの世に財産をもって行けないように、幻想を抱いて行くこともできない。ことさら社会運動をすることはしない。多くの人が、生きているうちに自分で目覚めるだけでよいのである。

少し前のNHKテレビの「週間ニュース深読み」で、アフリカや中東からヨーロッパへ押しかける、膨大な数の難民問題を取り上げていた。ここでもやはり、そもそも何が原因でこういうことが起こるのかに一言も触れなかった。従僕国（＝共犯者）にそれは言えないということであろう——たとえ何百万、何千万の人々が住処を追われ、飢えて死のうとも。

By Paul Craig Roberts

August 18, 2015



「…次に、政治家たちは安っぽいウソをつくり出し、攻撃される相手国に罪を着せるだろう。そしてあらゆる者たちが、こうした良心の呵責を宥める虚偽を喜んで受け入れ、それらを一生懸命研究するが、それへのどんな反論も調べようとしない。こうして彼らはやがて、やはり戦争は正しいのだと自分に納得させ、このグロテスクな自己欺瞞の過程の後、安らかに眠ることができることを神に感謝する。」——マーク・トウェイン（1835–1910）

NPR（ナショナル・パブリック・ラジオ）の今日のニュースを聞きながら、私はいかに完全に、このかつてのマーク・トウェインのような、独立不羈の音が聞かれなくなったかを思い出した。

NPR は、シリア人がトルコに押しかけ、ゴムボート筏に載ってギリシャに渡ろうと順番を待っている、と報じていた。NPR 報道によれば、シリアには現在 200 万のシリア難民がいて、これまでに 25 万人のシリア人が殺された。NPR は、この殺人と膨大な数の人々の移住がなぜ起こったのかについては、何も言わなかった。あたかもこれらの人々の窮境が、原因もなく降って湧いたかのようなようだった。ワシントンが、ISIS、アルカーイダ、トルコ、米および NATO 空軍、ワシントンの中東従僕国を、シリアに向かってけしかけたという事実には触れなかった。NPR の見方は、ワシントンのそれと同じである——アサドが辞任して、シリアをワシントンに明け渡しさえすれば、すべてがうまく行くということ。

アメリカ人にとって、米政府がシリアに加えた残虐行為のために慙愧に耐えられず、毎晩眠ることができない、などということはない。シリアだけではない——イラク、リビア、アフガニスタン、パキスタン、イエメン、ソマリア、ウクライナ、セルビアなど、すべてに対する加害行為だ。売春メディアによれば、これら人間の破局のすべては、アメリカが戦わねばならない暗黒の勢力のなせるわざである。実はそれは、軍/安全保障（＝軍需産業）複合企業の銀行収支のために、大衆の感情をうまく操作しているのである。

アメリカの——実は西側世界全体の——公的言説の腐敗は、全面的なものである。信頼できる報道はどこにもない——公的・私的どちらの機関からもやってこない。経済に関する報道は、成功しているアメリカというイメージを維持するための、プロパガンダである。ロシア、ウクライナ、ムスリム世界に関する報道は、騙されやすい者たちに、恐怖を吹き込むためのプロパガンダで、それは、ワシントンと軍/安全保障複合企業の、より大きな権力と利益を確保するための恐怖だ。

アメリカ人たちは、羊毛を刈るのに最も容易い羊であることを自ら証明した。

アメリカ人の騙されやすさは、世界に起こるハルマゲドンの脅威になっている。

（ポール・クレイグ・ロバーツについては、7・14「ペンタゴンの信念：世界を征服しない限りアメリカに安全はない」の末尾をごらんください。）